

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備）【事後評価書】

平成27年8月

計画の名称	1 県東部地方生活圏域の中心都市へのアクセス強化と快適な生活空間の整備による「活力ある鳥取」の創出									
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)	交付対象	鳥取県、鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町							
計画の目標	<p>県東部地域は、近畿圏との地理的有利性を活かし、鳥取自動車道の全線供用に合わせて、中心都市である鳥取市へのアクセス道路等や山陰線・若桜鉄道及び智頭駅周辺まちづくり計画を整備することにより、地域の貴重な観光資源を活用した観光振興を図るとともに、東部地域に工業団地を整備することにより産業振興を図り、安全・安心な活力ある地域の活性化を図る。</p>									
計画の成果目標（定量的指標）	<p>① 鳥取市へのアクセス時間の短縮 (0時間・台 (H22当初) → 1,812時間・台 (H26末)) ② 県東部地域への入り込み客数 (293万人 (H22当初) → 304万人 (H26末))</p>									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値		備考				
				当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)		最終目標値 (H26末)			
①	道路整備に伴う鳥取市へのアクセス短縮時間に各地点の交通量を乗じることにより、対象地域内における1日の総短縮時間を算定。 Σ[要素事業による短縮時間×当該地点交通量×(当該市町村から鳥取市への就業通学者数/当該市町村就業通学者数)]			0時間・台	934時間・台	1,812時間・台				
②	県東部地域への入り込み客数			293万人	(対当初2%増) 298万人	(対当初4%増) 304万人				
全体事業費	合計 (A+B+C)	19,355百万円	A	18,357百万円	B	0百万円	C	998百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	5.2%

事後評価

○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期	
事後評価(中間評価)の実施体制	事後評価の実施時期
整備計画構成自治体・団体 (鳥取県、鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町)	平成27年8月 公表の方法 鳥取県ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
1-A1-1	道路	一般	鳥取県	直接	-	国道	改築	(国)482号(茗荷谷～淵見BP)	バイパス L=2,680m	若桜町						1,230	
1-A1-2	道路	一般	鳥取県	直接	-	国道	改築	(国)482号(春米BP)	バイパス L=1,350m	若桜町				■■■■	■■■■	772	
1-A1-3	道路	一般	鳥取県	直接	-	国道	改築	(国)482号(上岸田橋架替)	橋梁架替 L=1130m	八頭町						109	
1-A1-4	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)鳥取河原用瀬線(嶋工区)	現道拡幅 L=1,200m	鳥取市						1,127	
1-A1-5	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)鳥取国府岩美線(十王峠)	バイパス L=1,720m	岩美町						372	
1-A1-7	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)鳥取河原線(菖蒲工区)	バイパス L=1,125m	鳥取市						427	
1-A1-9	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)鳥取郡家線(越路工区)	現道拡幅 L=380m	鳥取市						158	
1-A1-11	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)国安桂木線(橋本工区)	現道拡幅 L=1,000m	鳥取市						316	
1-A1-13	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)郡家鹿野気高線(岡木工区)	現道拡幅 L=1,300m	鳥取市				■■■■	■■■■	335	
1-A1-14	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)鳥取河原用瀬線(横原工区)	現道拡幅 L=700m	鳥取市				■■■■	■■■■	440	
1-A1-15	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)河原インター線(I・II期工区)	道路改良 L=6,370m	鳥取市 八頭町						2,666	
1-A1-16	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)津山智頭八東線(島工区)	現道拡幅 L=720m	八頭町						102	
1-A1-17	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)津山智頭八東線(智頭工区)	バイパス L=790m	智頭町						60	
1-A1-18	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)麻生国府線(市場工区)	現道拡幅 L=640m	八頭町						38	
1-A1-19	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)若桜湯村温泉線(赤松工区)	橋梁架替 L=25m	若桜町						7	
1-A1-20	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(主)岩美八東線(落岩工区)	現道拡幅 L=550m	八頭町						285	
1-A1-21	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)大坪集停車場線(大坪工区)	バイパス L=900m	八頭町						150	
1-A1-22	道路	一般	鳥取県	直接	-	都道府県道	改築	(一)鳥取砂丘細川線(細川工区)	バイパス L=400m	鳥取市				■■■		950	

1-C1-2	鳥取自動車道整備に伴い、県道河原インター線(1-A1-15)の整備と併せて、新たな工業団地（仮称河原工業団地）を整備することにより、地域経済の活性化と雇用創出が図られる。
1-C1-3	町道本庄11号線(1-A1-200)等の整備と併せて、児童の安全で効率的な登下校及び校外における体験学習機会の確保することにより、安全安心な通学環境が図られるとともに、ゆとりある教育が推進される。
1-C1-4	主要地方道津山智頭八東線(1-A1-17)や(1)久志谷線(1-A1-400)の整備と併せて、県外から来訪者に対し、観光情報や道路情報を提供することにより、観光客の利便性の向上を図るとともに、地域の活性化が図られる。
1-C1-5	(1)久志谷線(1-A1-400)等の整備に併せて、災害時等の避難広場として活用するとともに、地域住民、県外からの来訪者及び周辺道路利用者に対し、交流・憩いの場を提供することにより、地域の活性化が図られる。
1-C1-6	(1)久志谷線(1-A1-400)等の整備に併せて、「道路情報センター」「多目的広場」等の整備とともに、それらの施設利用者、県外からの来訪者の駐車場や周辺道路利用者の休憩の場等を提供する。
1-C1-7	主要地方道津山智頭八東線(1-A1-17)や(1)久志谷線(1-A1-400)の整備と併せて、町南部の農業体験・林業体験等各種観光事業実施地への移動手段として観光客の利便性・交通安全の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られる。
1-C1-8	主要地方道津山智頭八東線(1-A1-17)や(1)久志谷線(1-A1-400)の整備と併せて、町南部の農業体験・林業体験等各種観光事業実施地への移動手段として観光客の利便性・交通安全の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られる。
1-C1-9	(1)久志谷線(1-A1-400)等の整備と併せて、自動車利用観光客および公共交通機関利用観光客に対する玄関口としての景観向上及び地域住民との交流空間・憩いの場をしての活用することにより、地域の活性化が図られる。
1-C1-10	(1)久志谷線(1-A1-400)等の整備と併せて、町並みの沿道の景観向上を目的に、町が家屋を借り受けて修景を行った後管理し、観光客との交流拠点とすることにより、地域の活性化が図られる。
1-C1-11	(1)久志谷線(1-A1-400)等を整備することにより智頭駅周辺へのアクセス向上を図るとともに、道路空間を利用した実証実験を行い、周辺自動車・歩行者交通への影響の洗い出し等を行うことにより、実態に合わせた道路整備が検証できる。
1-C1-12	(一)鳥取砂丘細川線(1-A1-22)の整備に併せて駐車場を整備することにより、鳥取砂丘周辺道路の渋滞を緩和する。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> (一)河原インター線等のバイパス整備や(主)鳥取河原用瀬線等の現道拡幅を行った結果、交通の流れがスムーズになり、アクセス時間の短縮に寄与した。 (一)河原インター線等のバイパス整備や(主)鳥取河原用瀬線等の現道拡幅を行った結果、交通の流れがスムーズになり、入込客数が増加した。 					
II 定量的指標の達成状況	指標①（鳥取市へのアクセス時間の短縮）	最終目標値	1,812時間・台（100%）	目標値と実績値に差が出た要因	平成25年度から別パッケージで事業実施しており、最終実績値は平成24年度末の数値を採用。また一部要素事業において、地盤が軟弱であったことにより、対策工法検討に不測の日数を要し、計画どおりの進捗が得られなかった。	(参考)中間目標値(H24末)	934時間・台（52%）
		最終実績値	690時間・台（38%）			(参考)中間実績値(H24末)	690時間・台（38%）
	指標②（県東部地域への入り込み客数）	最終目標値	304万人（100%）	目標値と実績値に差が出た要因	平成25年度から別パッケージで事業実施しており、最終実績値は平成24年度末の数値を採用。道路事業以外の観光施策等の実施もあり、目標を上回ることができた。	(参考)中間目標値(H24末)	298万人（98%）
		最終実績値	360万人（118%）			(参考)中間実績値(H24末)	360万人（118%）
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況		バイパス整備、現道拡幅により、通行の安全性が向上している。					
3. 特記事項（今後の方針等）							
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度から別パッケージで事業を継続実施しており、目標達成に向けて引き続き効率的・効果的な道路整備を進め、アクセス性の向上や入込客数の増加を図る。 							

